

『タスクベースで学ぶ日本語 中級』シリーズ 質問回答一覧

※本資料は、過去に開催したオンラインセミナーで、参加者の方からいただいた質問と講師からの回答をもとに作成いたしました。回答内容は、シリーズ執筆者が行った授業内での取り組みをもとにご紹介いただきました。実際の授業での取り組み例として、本シリーズをご採用中の先生や、ご採用を予定している先生方の参考資料としてご活用ください。尚、本資料はセミナー講師(執筆者)に許可を得て公開しています。

スリーイーネットワーク

教材紹介
ページは
←コチラ

	質問	回答
1	『中級I』に関して、文法のレベルに比較して、「メインタスク」の聴解が難しいように感じたのですが、聴解が弱い学生に対して何か工夫をしていますか。	文法レベル(その課で学ぶ文法項目)と聴解の能力を直接的に比較することはできない、ということを前提にお答えします。『中級I』では、第6課の目標にある通り「メディアでの語りを聞き、その主要な点を理解する」能力を身につけてほしいと考え、タスクを設定しています。一言一句、全てを聞きとる必要はなく、メモが取れたらそれでタスク達成と考えます。それまでに「プレタスク」で様々な足場架けを行っているため、聴解が弱いという学習者でも、そのほとんどがタスクを達成できています。なお、リスニングのやり方はクラスによってそれぞれが良いと思います。このタスクそのものを20分ほどの個人作業の時間とし、本人の好きなペースで好きなように聴くやり方をすることもありますが、最後にスクリプトを見ながら聞いて確認したこともあります。
2	「文型・表現」のページをうまく使いこなせていません。どうしても一方的な授業になりがちなのですが、何か工夫していますか。	パワーポイントなどのスライドでイラストなどを使用してどのような場面・状況で使えるのか示した後で、学習者に例文を作ってもらおうと良いと思います。学習者が多くいる場合は、一人一人の例文を全員分取り上げるのは時間的に難しいと思いますので、ペアやグループでいっしょに例文を考えて発表してもらうのも一案です。その際、クラス全員が共有しているクラウド上のファイルに書き込むようにしておくと、後で見返すこともできるというメリットもあります。また、ペアやグループで話す時間を設けると、実際にどのような場面で使えるのか、自分たちの状況に引き寄せて検討し、意見交換することもでき、非常に活性化された明るい授業になると思います。
3	「プレタスク」や「メインタスク」を行っている際に、学習者が文法部分に関心が向いている場合、どのような対応をするのがよいでしょうか。	国際基督教大学(以降、ICU)の実践では、「プレタスク」や「メインタスク」の最中に出てきた新しい文型や表現、その他の文法部分について、学習者が意味を確認することはあるものの、用法など詳しい説明を求めることはあまりありません。これはおそらく内容に集中しているからで、そこで文法説明が入ると思考の流れが止まってしまうのではないかと思います。もし気になる学習者がいた場合には、テキストの流れとして、次の授業で「文型・表現」を集中的に説明・練習する時間がありますよ、という説明を加えます。ほとんどの学習者が、タスクの後に新しい「文型・表現」を確認する流れに慣れていくようですが、学習者のそれまでのスタイルやビリーフもあるかもしれないので、授業後に個別に声かけしておくのも良いと思います。
4	タスクベースのスタイルに慣れない学習者がいた場合、教師はどのように促していけばいいでしょうか。また、有効な声かけの仕方などがありますか。	まずは、教師自身が、押し付けではなく、なぜこの学習者にタスクベースが良いと思うのかを考えるとこから始めるのはいかがでしょうか。何のために日本語を学んでいるのかを聞くのも良いと思います。ICUの『中級I』を使用したコースでは、学期初めに日本語学習の長期的目標と短期的目標(このクラスで何が得意になりたいか)を話し、学期の最後にその目標が達成できたかを振りかえています。これらの目標とタスクベースのアプローチが合致するなら、自信を持ってこのスタイルで学習を続けることを勧めるのが良いと思います。それでも、学期中にどうしても乗り切れない学習者には、まずはその戸惑いがわかるということを伝え、寄り添ってみてください。その中で、本人なりの伸びが見られた時には大いに喜ぶと良いと思います。かつて「私はわからない、考えたことがない」で話が終わってしまっていた学習者が、最後には「私は考えたことがなかった。でも、…」というようにその人なりに考えたり話したりできるようになったことがありました。個人差にも対応できるのがタスクベースの良さだと思いますので、そのような姿勢で教師が学習者に向き合ってみただければと思います。
5	最近内向的な学習者が増えていて授業中にあまり他の学習者とタスクや練習をしたくない傾向があります。いいアドバイスありますか。	まずは、学習者がタスクを通じて学ぶことの面白さや意義を実感するような授業を展開することが第一だと思います。このテキストにはその仕掛けがたくさんあるので、ぜひ流れに乗ってみたいと思います。その上で、その流れに乗り切れない学習者には個人的に声かけをし、慣れていくことを促すのが良いと思います。どうしても人前で話すのが苦手な学習者の場合、まずは無理をする必要はないと声をかけ、その後も発表ごとに、大丈夫かどうか確認しました。教師が自分のことを理解してくれているとわかれば学習者も安心できるようです。海外の現場などでクラスメートと母語でやりとりできる場合、なかなか対話から新しい情報が得られないかもしれませんが、相手をよく知っているクラスメートならではの楽しさもあると思います。また、その場合、日本人との(オンライン)交流会などを企画し、クラスでやったことがそのまま日本人との会話につながるという時間を持つことができれば、クラスでの取り組み方も変わってくるかもしれません。
6	この教材を使った授業の実施にあたり、国籍や母語による学習者の反応の違いなどもあるのではないかと想像しますが、いかがでしょうか。またその際の対応の工夫などありましたらご紹介ください。	国籍や母語による反応の違いというよりは、個人の性格や学習スタイルの違いに起因する反応の違いはあると思います。また、何かのものごとについて、学習者たちのいままでの経験の中だけでは出てこない発想が、背景の違うクラスメートとのやりとりで気づくというのも、このテキストを使用する利点と言えるかもしれません。なかなかタスクに対して積極的になれない、あるいは、なかなか話せないというような学習者がいる場合は、グループの構成の仕方などに配慮を加えています。また、個別指導でもサポートするようにしています。

	質問	回答
7	個別指導(チュートリアル)ではどのようなことをしていますか。	発表や作文などのタスクのフィードバック、「文型・表現」練習シートや「前の課のクイズ」、中間テストのフィードバック、それまでの学習の振り返り、「プロジェクト」の指導などを行っています。
8	『中級2』の巻末にある「プロジェクト」で、公共施設についての作文・レポートを作成する際、インターネットの文章をそのまま使う、ということはないのでしょうか。自分自身の分析ではなく、インターネット情報を書いて、そのままの発表となることはありますか。	「プロジェクト」では、テキストP.82に記載されている「1. プロジェクトの計画」や「2. 紹介する施設についてのまとめ」をワークシート形式にして、レポートのテーマやアウトラインを先に考えますので、インターネットの情報をそのまま書いてきたような場合は、その時に指導します。そのままの状態での発表となることはありません。「プロジェクト」の進め方についての詳細は、WEBで公開している「教師用ガイド」(https://www.3anet.co.jp/np/resrcs/404208/)をご覧ください。
9	同国人が集まり、なかなか日本語での会話に発展しないようなクラスの場合の進め方や工夫などがあれば、教えてください。	母語を活用することを一切禁止する必要はないと思います。例えば、「発表の準備(調べ物)は母語を使用してもよいが、発表は日本語で行う」というように、具体的に示すと良いと思います。 時には「教室に入ったら日本語」、「この活動の時は日本語のみ」のようにルールを作っても良いと思います。 テストなどの評価項目などを上手に利用することもできると思います。テストは本来、授業で養った力を測るものなので、学習者にもそのことを伝え、インタビューやペアワークなど、日ごろの取り組みがパフォーマンスとして表れるようなテストにし、評価するポイントを示しておけば、教室活動も日本語でやろうとするのではないのでしょうか。
10	学習者が行き詰まった時、どのように後押しすると良いでしょうか。	タスクベースで学ぶ場合、言語形式を習得し使用することが目標ではありませんが、課題を遂行するためには言語形式の習得は必要なものなので、タスクベースであっても、教室外で、自分で語彙や文型・表現の予習復習をすることは、教室活動をスムーズに行うことに繋がることを伝えると良いと思います。 『中級1』から『中級3』に進むにつれて、少しずつ専門的な内容、抽象的な内容が増え、次第にタスクの遂行には、背景知識が必要となることが多くなります。例えば「プレタスク」の授業を休んだ次の日にいきなり「メインタスク」に取り組むのは難しいかもしれませんので、可能であればチュートリアル(個別指導)で、無理ならメール等で「プレタスク」の内容(休んだ日の授業内容)を補足し、その足場架けをすると安心して取り組めると思います。 発表等のタスクの前には、自信を持って臨めるように、個人的に練習をサポートしておく、良い結果に繋がり、そこから自信も生まれると思います。
11	学習者に合わせて、授業中にタスクの量やレベル調整をすることがありますか。もしあれば、その例を教えてください。	学習者に合わせてタスクの量そのものを変えたりはしていませんが、レベル調整は可能だと思います。また、提出された成果物に対するフィードバックの内容は、学習者のレベルに合わせて調整しています。例えば、作文では、学習者によって、助詞や活用などの間違いを指摘したり、より適切な表現を提案したりする場合もあれば、そのような点は指摘せず、文章の構成や流れ、主張と根拠の一致具合などを指摘する場合があります。
12	筆記試験を実施していますか。している場合、それはなぜでしょうか。	TBLT(Task-Based Language Teaching)ではタスクに取り組みながら付随的に言語を学ぶことを目的としています。つまり、全体としてはタスクの遂行に焦点をおいていますが、言語形式にも気づきを促すように教室活動をデザインしています。言語形式に焦点をあてたフィードバックをする際に、漢字や文型表現の用法の理解や使用も形成的に評価しており、筆記試験形式の「クイズ」もその1つとして位置付けています。「クイズ」は、テキストP.(12)「学習の流れ」で「前の課のクイズ」と記載しているものです。ICUでは、漢字の読み書き、文型・表現のみをテストしています。 学習者達の様子を見てみると、「前の課のクイズ」が教師・学習者自身にとって学びを振り返り、次につなげる形成的評価として機能しているだけでなく、言語形式にも焦点をおくことで学ぶ動機づけにもなっていることが感じられます。

質問	質問	回答																				
13	発表の評価の仕方について教えてください。	<p>発表の内容、目的、形式にもよりますが、複数回行われる、小グループ内での短い発表の場合は、例えば、①内容、②構成、③日本語（正確さ・適切さ）の3つの点を、各1点の3点満点で評価する程度で良いのではないかと思います。</p> <p>一方、「プロジェクト」の発表などの場合、事前に評価ポイントを詳細に伝えておくことで、それらの点を意識して準備することができ、学習効果も上がると思います。</p> <p>以下は一例です。</p> <p>（『中級3』の「プロジェクト」発表の評価項目例）</p> <table border="1" data-bbox="1080 474 2223 1209"> <tr> <td>内容1:調査について説明できているか 調査の目的、方法と対象、仮説、インタビューの質問内容、結果の説明が十分されていたか</td> <td>1-2-3-4-5</td> </tr> <tr> <td>内容2:データの分析・考察・結論が説明できているか ・調査結果について考察したことが説明されていたか ・結論が妥当で、調査結果に基づいていたか</td> <td>1-2-3-4-5</td> </tr> <tr> <td>日本語の使用 ・発表に適した言葉・表現が使えていたか ・日本語は正確だったか ・レベルに合った語彙や表現が使えていたか</td> <td>1-2-3-4-5</td> </tr> <tr> <td>スライド ・スライドの内容は適切か（発表の内容と合っているか） ・見る人にわかりやすいか、見やすいか ・間違った字や情報がないか、言葉は適切か</td> <td>1-2-3-4-5</td> </tr> <tr> <td>話し方など ・声の大きさ・目線・スピード・発音・態度・時間などが適切か ・質疑応答がしっかりできたか</td> <td>1-2-3-4-5</td> </tr> <tr> <td>その他 ・クラスメートの発表に教室でコメントや質問をしたか ・クラスメートからもらったコメントや質問に答えられたか</td> <td>1-2-3-4-5</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合計点</td> <td>/30</td> </tr> </table>	内容1:調査について説明できているか 調査の目的、方法と対象、仮説、インタビューの質問内容、結果の説明が十分されていたか	1-2-3-4-5	内容2:データの分析・考察・結論が説明できているか ・調査結果について考察したことが説明されていたか ・結論が妥当で、調査結果に基づいていたか	1-2-3-4-5	日本語の使用 ・発表に適した言葉・表現が使えていたか ・日本語は正確だったか ・レベルに合った語彙や表現が使えていたか	1-2-3-4-5	スライド ・スライドの内容は適切か（発表の内容と合っているか） ・見る人にわかりやすいか、見やすいか ・間違った字や情報がないか、言葉は適切か	1-2-3-4-5	話し方など ・声の大きさ・目線・スピード・発音・態度・時間などが適切か ・質疑応答がしっかりできたか	1-2-3-4-5	その他 ・クラスメートの発表に教室でコメントや質問をしたか ・クラスメートからもらったコメントや質問に答えられたか	1-2-3-4-5	合計点	/30						
内容1:調査について説明できているか 調査の目的、方法と対象、仮説、インタビューの質問内容、結果の説明が十分されていたか	1-2-3-4-5																					
内容2:データの分析・考察・結論が説明できているか ・調査結果について考察したことが説明されていたか ・結論が妥当で、調査結果に基づいていたか	1-2-3-4-5																					
日本語の使用 ・発表に適した言葉・表現が使えていたか ・日本語は正確だったか ・レベルに合った語彙や表現が使えていたか	1-2-3-4-5																					
スライド ・スライドの内容は適切か（発表の内容と合っているか） ・見る人にわかりやすいか、見やすいか ・間違った字や情報がないか、言葉は適切か	1-2-3-4-5																					
話し方など ・声の大きさ・目線・スピード・発音・態度・時間などが適切か ・質疑応答がしっかりできたか	1-2-3-4-5																					
その他 ・クラスメートの発表に教室でコメントや質問をしたか ・クラスメートからもらったコメントや質問に答えられたか	1-2-3-4-5																					
合計点	/30																					
14	中間試験、期末試験のインタビューテーマはどのようなもので、どのように実施していますか。また、評価はどのようにしていますか。	<p>各課のテーマに関係がある話題について、学習者の考えを引き出すようなインタビューをしています。ただ、全く新しい問いではなく、授業での議論に参加していれば、その内容がヒントになって答えられるような問いにしています。例えば、『中級3』第1課に関連のある問題では、「日本では犬や猫の殺処分がまだなくなっていない。飼い主のいない犬や猫が殺処分されてしまう可能性があることについて、どう思いますか。殺処分を減らすためには、どうしたらいいと思いますか。」という質問をし、その後は学習者の意見を受けて自然なやりとりを続けます。</p> <p>評価方法については常に見直していますが、例えば、次のような点について評価しています。</p> <p>（『中級3』の期末インタビュー試験の評価項目例）</p> <table border="1" data-bbox="1068 1499 2050 1871"> <tr> <td rowspan="3">内容</td> <td>質問にあった答えになっているか。</td> <td>2-1-0</td> </tr> <tr> <td>言いたいことが明確か。</td> <td>2-1-0</td> </tr> <tr> <td>自分の考え・意見と、その理由・例が合っているか。</td> <td>2-1-0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">日本語</td> <td>中級レベルの適切な言葉・表現が使えているか。</td> <td>2-1-0</td> </tr> <tr> <td>文法的に正確に話せているか。</td> <td>2-1-0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">話し方</td> <td>インタビューに適した話し方ができているか。</td> <td>3-2-1-0</td> </tr> <tr> <td>自然に話せているか。（発音、イントネーション、スピードなど）</td> <td>2-1-0</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: right;">合計</td> <td>/15</td> </tr> </table>	内容	質問にあった答えになっているか。	2-1-0	言いたいことが明確か。	2-1-0	自分の考え・意見と、その理由・例が合っているか。	2-1-0	日本語	中級レベルの適切な言葉・表現が使えているか。	2-1-0	文法的に正確に話せているか。	2-1-0	話し方	インタビューに適した話し方ができているか。	3-2-1-0	自然に話せているか。（発音、イントネーション、スピードなど）	2-1-0	合計		/15
内容	質問にあった答えになっているか。	2-1-0																				
	言いたいことが明確か。	2-1-0																				
	自分の考え・意見と、その理由・例が合っているか。	2-1-0																				
日本語	中級レベルの適切な言葉・表現が使えているか。	2-1-0																				
	文法的に正確に話せているか。	2-1-0																				
話し方	インタビューに適した話し方ができているか。	3-2-1-0																				
	自然に話せているか。（発音、イントネーション、スピードなど）	2-1-0																				
合計		/15																				